

第七次福井市総合計画審議会 専門部会 第3部会（第3回）

■日 時：平成27年12月14日（月）14:00～16:00

■場 所：福井市役所 第2別館2階 22（B）会議室

■出席者：別紙のとおり

■会議内容

1. 開会

事務局（山本総合政策室副課長）

それではおそろいになりましたので、ただいまから、福井市総合計画審議会第3部会の3回目の専門部会を開催させていただきます。皆さま方におかれましては、大変お忙しいところご出席賜りましてありがとうございます。

本日は宮崎副部長、それから片川委員から欠席の旨連絡がございましたので、ご報告させていただきます。

それでは早速でございますが、審議の方に入っていただきたいと思います。南保部長、よろしくをお願いします。

2. 審議

基本目標3「みんなが生き生きと働くまち」について

【資料】・第七次福井市総合計画（案）

南保部長

それでは、まずは今日、お忙しい中ご参集いただきましてありがとうございます。

では本旨に入っていきたいと思います。入る前に、前回の審議内容の確認と配布資料について、事務局より説明をお願いいたします。

事務局（落合総合政策室主査）

総合政策室の落合と申します。座って説明させていただきます。

まず今回お配りした資料の全体構成と、過去2回の専門部会で皆様から頂きましたご意見がどのように反映されているのかということにつきまして、簡単ではございますがご説明させていただきますと思います。

まず初めに、資料の全体構成やレイアウトなんですけれども、まずこの資料の右上の方に白い文字で、例えば最初の政策8でしたら「農林水産業に関する政策」ということで、この政策が何を表すのかを端的に示す言葉を追加させていただいています。

次に、資料の左上の方、政策8と書いた下のところが政策のタイトルになっておりまして、その右側に説明文という構成となっています。今回新たに変わったのは、資料の左側の部分、「現状」「課題」「仮データ」というかたちになっていると思うんですけど、まず以前は現状と課題が一緒くたになっていたのですが、それを現状は「現状」、課題は「課題」というかたちで分けております。

課題なんですけれども、課題の前に数字で①、②と書いてあると思うのですが、その①②というのは右側の施策の①②にリンクするかたちになっております。あと多くの委員さんから、計画全体にリアリティーが乏しいとか、規模感がわかるようにしてほしいというご意見を頂きましたので、課題の下に現状を示すデータの推移をグラフで表示しています。

施策につきましても今後5年間、特徴的な取り組みなどを入れ込むことで、できる限り市民にわかりやすくするように箇条書きにさせていただいています。以上が全体のレイアウトのご説明です。

次に政策の、皆さんから頂いたご意見の反映箇所ですけれども、まず一番大きいのは産業順に変更させていただいていますので、最初に農林水産業に関する施策が出ています。そして皆さんの意見として、農林水産業は形が必要だというご意見がございましたので、こちらは施策③の1つ目で、ビジネスモデルの構築や農林水産物のブランド化に取り組んでいきたいと考えています。

次に、女性や若者が就農しやすいようにというご意見も頂きまして、こちらにつきましては施策①の3つ目のポツで、就農初期の経営基盤の安定化に取り組んでいきたいと考えております。米の消費拡大を促進すべきというご意見も頂きましたが、それは施策③の2つ目のポツ、福井米の消費拡大をこちらの方で取り組んでいきたいと考えています。最後に、稲作を強化すべきというご意見も頂きましたので、こちらにつきましては施策①の1つ目で、農地の集積・集約化、生産コストの縮減などによりまして稲作農業の基盤を強化していくとさせていただいています。

左側の挿入資料は、今回初めてお見せするデータですけれども、まず左側のグラフは平成12年から平成25年にかけての主要米価の推移を示しています。ピーク時は2万円ぐらいであったという話なんですけれども、そこから低下傾向にありますので、間接的ではございますが、農地の集約化や園芸との複合経営などを進めまして、米価下落をカバーする必要がある、そのようなことを施策で取り組んでいきたいと考えています。

右側のグラフは、平成17年から平成27年11月現在の農業従事者の平均年齢の推移を示しています。全国と比較しても本市の年齢は高い傾向がございまして、今後はやはり意欲ある方への新規就農を促進する施策としまして、ハードのみならずソフト面でも支援していく必要があると考えています。

続きまして政策9です。こちらにつきましては、全体的に今年中に完成予定の総合戦略と整合性を図っています。皆さんから頂いた意見としましては、人口減少に対する危機感、こちらの描写がちょっと少ないのではないかということで、これにつきましては総合計画の前段の基本構想のところでこれから盛り込ませていただくとともに、現状を表す文章の中にもこういった人口減少のことを反映させていただきました。実際には施策③の1つ目で、関係機関との連携を強化して、UIターンや地元の就職を支援していこうと考えています。

もう1つ、商業に関する施策についてちょっと内容に乏しいのではないかというご意見がございましたので、施策①の3つ目に、「商業・サービス業の発展」というところで、こちらの方で発展に努めていきたいと考えています。

女性の活躍や社会への取り込みにつきましては、施策の②の1つ目で、女性の多様な創業の支援ということと、施策③の3つ目で、ワークライフバランスの推進を促進していこうと考えております。

ハイクオリーな産業の創出も大事ではないかというお話があったと思いますが、こちらは施策①の1つ目で、本市産業への波及効果が見込まれる新事業の創出を促進してい

くことを考えています。

最後に、労働局の方から、ハローワークの利用・活用をするべきだというお話がございました。こちらにつきましては施策③の1つ目で、「関係機関との連携」というかたちで表現させていただいて、誰もが安心して働ける雇用環境の充実を図っていききたいと考えております。

挿入資料です。まず左側のグラフ、こちらは平成23年から平成27年までの福井県内全体のデータですが、Uターン就職者と率を示しています。直近、27年3月は全体と比べると率・数とともにわずかですが上昇しているということがうかがえます。

右側のグラフは平成元年から平成25年までの本市の製造品出荷額などの推移と、製造業の従業者数の推移を示しております。近年の技術革新などによりまして、人口減少にもかかわらず、労働生産性が向上していることにより製造品出荷額が伸びているのではないかと。もちろん景気の動向等にも大きく左右されますが、このグラフからはそんなことも読み取れるのではないかと考えております。

続きまして政策10です。こちらは全体的な流れとしまして、現在商工労働部の方で作成中の観光ビジョンと整合性を図っております。こちらの変更点といたしまして、まずタイトルの文言を、以前は「笑顔があふれる」というかたちだったんですけども、「おもてなしの心があふれる」というかたちに変更しています。それに合わせまして、現状・課題・施策の全てに「おもてなし」という文言を入れて、心の醸成を図っていききたいと考えています。

前回の審議会で、こちらの不手際等がございましたが、「インバウンド」の文言を削除しておりました。こちらにつきましては、これから観光についてインバウンドは外せないものだと思いますので、現状・課題・施策の方にもインバウンド観光の強化をうたい、強化していききたいと考えております。

最後に、挿入資料がこちらにも2つありますが、左側のグラフは平成20年から平成26年の本市への観光入込客数と、主要観光地の観光客の推移を示しています。直近では横ばい状態となっておりますが、計画がスタートするのが平成29年度なので、平成27年、今年度のデータは少なくとも反映できる、もしかすると来年度の分もある程度反映できるかもしれませんので、そちらにつきましては新たに増加しているのではないかと考えられます。

右側のグラフは、平成13年から平成25年の個人・団体の国内宿泊旅行者の割合を推移で示しています。ご覧のとおり、最近では団体旅行が減少しておりまして、個人旅行の割合が大幅に増加しています。ですので、今後は個人をターゲットにした、広がっていく多様なニーズ、そういったものを取り込む施策に取り組む必要があるのではないかとということを示しているデータでございます。

いずれにおきましても、これら3枚とも仮データというかたちで、これを最終として計画の方針のときに使うかどうかというところは、今はまだ精査中です。本日ご意見等を頂ければ随時変更いたしますので、本日はどうぞご審議の方をよろしくお願い申し上げます。

南保部会長

一応、政策8から政策10までの3つの政策の変更点について事務局からお話いただきました。主に現状とそれに対する課題、課題に対する方策ということでまとめていただきました。それとともにグラフ化、見える化ということで、リアリティーといったところからグラフも挿入して、政策にも反映させるといった手法でまとめました。

だいたい今まで、農林水産業、商工業、それから観光産業ということで、3つの柱について各委員、皆さま方から頂いたご意見については反映させていただいていると考えてお

ります。特に観光産業につきましては、実はこの前の会の後いろいろと、観光ビジョンとの整合性を取るということで、さらに私も観光ビジョンの作成を担当している方とヒアリング等を実施していただいて、中身の精査を図りました。そのようなことから、だいたいは整合性が取れているかなと思いますが、今日最後の部会ということなので、まだ足りないところ、あるいは大きく落ちているところ等々がありましたら、またご意見を賜ればと思っております。

そんなところで、今3つ合わせたどこからでも結構ですので、ご意見、ご感想を頂ければありがたいと思えますけれども、どうぞごさいましょうか。

私個人としては、政策9の商工業の発展と、観光産業が気になるところです。最近の景況感というか、そんな話もいろいろテレビ、新聞等々でお聞きしているんですが、どうも今年1年を通して福井県の景況感が思うほどに悪くなかったという結論が出ています。北陸三県の中での議論なんですけれども、その要因としてはやはり金沢開業によって福井の方にかなり思いもしない観光客が舞い込んだということが挙げられておまして、そういう意味では政策10の第3番目、観光産業の磨き上げなどもこれからは重要になってくるのかなと思っております。

今、特に先ほども指摘がありましたインバウンドについては、インバウンドプラス域内の交流、さらに域外からの域内交流というような視点を入れたいということもあつたわけですが、特にインバウンドは重要だということで、再度いろいろと事務局との話の中で、さらにインバウンドを強調した表現になっております。

商工業についても、商業・サービス業の展開が特に気になるということ、そういう文言も入れさせていただきました。農林水産業については私もあまり詳しくないですが、各委員から頂いた意見を盛り込んでいると思えます。

そんなことで、どうぞごさいましょうか、感想でも、またさらに足し込むご意見でも結構でございますので、ご忌憚のないご発言等をいただければと思えますが。では林委員からいきましょうか。いきましょうかと言ったら失礼ですけど（笑）。女性であり、紅一点ということで。

林委員

では2点。

南保部会長

2点もありますか。

林委員

はい（笑）。1点は政策9の施策③、「福井で働くことを応援する」というところの3つ目ですね、「ワークライフバランスの推進に取り組む企業を支援し」のところなんですけれども。これは私の仕事柄、企業研修をさせていただいていることだったり、ふくむすびの初代会長のある方とお話をしているちょうど話題にもなったんですけれども、ここを本当に死活問題として、どこの企業様も言っているということを感じますね。

「女性の活躍する」というところで、ちょっと女性を採用してみようか、採用してみたはいいけれども、子育てが終わった人とかだとすぐ介護に行ってしまう、そしてまた辞めてしまうという方がやっぱりすごく多かったと。30歳前後の人だと出産とかで突然、妊娠して辞めてしまうなどで、本当に人材がない。もう、女性を採用しない方がいいのかなということを感じます。

南保部会長

採用しない方がいいということですか。

林委員

はい。女性を採用する意義は何ですかともものすごく聞かれるんです。実際、ワークライフバランスの推進というところで、女性を対象にしたセミナーや講座ってたくさんあるんですけども、それよりも企業向けに、支援だったりセミナーだったり、意義を伝えていくようなことがものすごく大事なのかなとすごく感じます。

南保部会長

企業の認識を変えるということですか。

林委員

はい。

南保部会長

それとやはり女性の認識も変えなければいけないですよ。

林委員

そうですね。

南保部会長

両者ですよ。両方ともやっぱり、各種の啓発活動によって両者が進化していくというか、女性の働く、活躍する場を広げるような試みをやっていくことがまず重要なのではないかというご意見ですね。

林委員

そうですね。私も講座を担当させていただいたことがあるんですけど、女性向けの講座も大事なんですけれども、より企業の経営の方が大事なんじゃないかなと思います。

南保部会長

ワークライフバランスというのは、労働局の雇用均等室の方で毎年かなり力を入れてやっていると思うんですけども、今それ以外の部署はないんですかね。後藤委員、どうですか。

後藤委員

そうですね、主たる所掌はやっぱり雇用均等室。

南保部会長

雇用均等室ですね。あそこがメインで。

後藤委員

いろんな各企業の指導はそこがやっています。

南保部会長

そうですね。それが1点ですね。

林委員

もう1点は、ちょっと思った話なんですけれども、「おもてなしの心があふれる観光のまちをつくる」という、政策10のタイトルですね。これはちょっと最近感じることなん

ですけど、若手社員というか若い方は、「おもてなし」と言ってもわからないなというのを感じています。私たちが思っているおもてなしというものより、すごくレベルが低いというか、おもてなしって何と言われて、そこから説明しなきゃいけないということがものすごくありまして。おもてなしというものを若者はわかってくれないんだということを最近感じました。

南保部会長

そうですか。若者はおもてなしについてどう思っているんですかね。この言葉の語彙は。

林委員

語彙ですか。相手が気持ちよくなるような対応だったりということだと思うんですけど。例えば、コンビニとかファミレスとか、そんな店員さんしか知らないとなると、基本的に。あとは店員さんが最近外国の方だったりすることもあると、おもてなしってそもそも何ですかということですね。

さまざまな企業研修に行って、若者から本当にそのように聞かれるんですね。それを、福井だけではなくて全国の講師の間で話をしたら、新入社員研修を担当している人が、「そうなのよ、おもてなしを若者はみんな知らないよね」という話になって。ちょっとジェネレーションギャップというのを感じまして、これを見て若者はわからないのかなと思いました。意見というか、ちょっとした感想ですけど。

南保部会長

いや、大事なことです。おもてなし。ありがとうございます。わからない言葉を使ってはだめだね。

林委員

わかりやすい言葉なんですけど、若者にはわからないんだなというのを、ここ1、2年すごく感じます。

南保部会長

そうなんです。ちょっと騒ぎまくったのがあるので。

野坂委員

あれだけ東京オリンピックの誘致で「おもてなし」をやったから、言葉としては知っているんじゃない。

林委員

言葉としては知っているけど。

南保部会長

中身がわからない。そうか。

林委員

だからあのパフォーマンスがおもてなしと思っているぐらい、かもしれないですよ、本当に感覚としては。

南保部会長

あ、そう。僕らは化石みたいな人間になってしまったよ。ありがとうございます。では、高原さん。

高原委員

特に印象深かったのは、やっぱり政策9の創業というところです。いろいろご苦労ただいておまとめただいて、方向性としては、こういう方向性なんだろうと本当に思っています。今年もビジネスプランコンテストが福井市さんであって、118件のプランが出てきました。約半分が一般の方々、約半分が学生さんによるプランの提出で、最終選考会が8つだけ残るといことなんですけど。選に漏れた方で、本気でそのビジネスをやりたいという方が結構おられまして、こういう方々をどうきめ細やかに拾っていくかがすごく大事なことなんだろうと。

そういう観点でいうと「若者や女性をはじめとした多様な創業」、このことに尽きるのかなと思うんですけど。創業を考えていらっしゃる方がより熱くなれるよう、しっかりと支援ができるような枠組みというのがもうちょっとできるといいかなというのが、それに携わっているわれわれの思いとしてはあります。創業したいという方々にできるだけ手を挙げていただいて、手を挙げた方々をその地域が、銀行さんなんかも含めまして、サポートしていくスキームを、どのようにさらに充実させていくかというのがすごく大事なんだなということをつい最近本当に思っていますので、このあたりはそのとおりなんでしょうけれども。

今年さらに思ったのは、50歳以上、60歳70歳の方も、リタイアされるとかリタイアする前に第二の人生ということで創業を考えていらっしゃる方は、50人近く、一般の方の中でも2割ぐらいはそういう方がおられて、結構人生経験も、ある程度の資金も自分で持っていていらっしゃるって、本当にやる気のある方もおられます。そう考えると、確かに本来女性に一番頑張ってもらいたいと思うんですけども、結構創業のかたちが多様化してきているんだなと感じまして。だから文言にどうのこうのということではないんですけども。

南保部会長

それは施策段階でどう反映するかという話なので、重要だと思います。

高原委員

そうです。そういったところを、この中で思ったのが1つありまして。私は文面としては全然。

南保部会長

アーリーステージなんかですくい上げるような制度的なものとか、あるいは今言われたリタイア組でも元気でやりたいという人たちを、東京でもやっていますよね、そういう何か支援機関を挙げてやれるような施策をやっぱり考えなければいけないですね。

高原委員

そうですね。そういうのもぜひ、これに関連して何か具体的にになるといいかなと思いました。

南保部会長

ありがとうございました。

高原委員

あともう1点。データなんですけど、これは福井県のデータですので福井市はどんな感じなのか。Uターン、Iターンが、県ではわかりましたが福井市においてどういう状況であるのかということも、県でざっくりとってしまうのも僕はどうかと思うんですけど。もう

よっとリアリティーをとということでデータを出されるのであれば、福井市のデータがあってもいいのかなと思います。

南保部会長

これは室長、どうですか。閉じ込めるのであれば、福井市の方が面白いことは面白いですよね。

事務局（山田総合政策室長）

当然ここに掲げるデータというのは現状も押さえつつ、今後の政策を評価する上でも使うので、福井市のデータでないと意味がないと思っています。かつ生データをそのままにするのか。ちょっと加工して、いろいろなものを組み合わせて新たなデータをつくるという手もあるので、難しいところなのでご意見も伺いたいです。ご指摘のように県のデータをそのまま使うことはないと思っていただければいいと思います。でも実は福井市では出てこないんですね。このUターンはよくわからないんですけど。市のこういうものがわかるようなものを、他で工夫しなくてはいけないなと思います。

高原委員

さっきの話なんですが、福井市内で創業した人は今年何人いるのかとか、廃業した人はどれほどいるのか、そのあたりのデータもトレースできるといいかと思います。

事務局（山田総合政策室長）

創業者の数というのは、うちが直接支援しているのもありますし、それ以外でいろいろ取り方があるので、そこは工夫して、年間80人ほどやりたいという計画も作っていますので、それはつかめるようにはしています。Uターンがちょっとわかりにくいところにはなっています。ちょっと工夫するとか、いろいろどうしようかと今考えているところです。

南保部会長

よりリアリティーを求めていくというのは大事だと思います。対応できる場所はしていただくことでいいかなと思います。ありがとうございます。

見谷さん、いかがですか。

見谷委員

私も思い付きのままということで。総合的にはこんなものかなとは思いますが、まず農林水産業の方でございますけれども、いつも思うんですが、農業所得の向上とかこういう言葉が出てくるんですが、当然いつも向上を目的にしてはやっているんですけども、計画の中で若干の数値化をしてこれくらいの目標を持つというふうな、ただ向上、向上ではわかりにくいところがあるのではないかと。

それと、「農山漁村の生活・生産環境を守る」という中で、われわれは最近いろいろな選挙もあってそこら中を回っている中で、特に農山漁村の空き家の問題をどう思うか。この空き家とこっちの観光の中で、観光資源を磨き上げるというのが、これは当然磨き上げてもらわないといけないのですが、福井の市長もこの選挙戦でも一乗朝倉の方とかへはよく行っていますけれど、ものそのものは歴史があるんですけど、ここが浮き上がってきたのは三重指定になってからですから。またこのグリフィス記念館も今びよこっと出てきたような観光地で、これもいいとは思っています。

しかし、農山漁村にはいろいろ文化や歴史がまだまだ残っている、その中で空き家とかになってきてしまいますと、特に今人口減少の中で、行政が取り上げて本格的に見直していかないと、いい観光地へ行っても空き家だらけで、もうどうしようもないというのは

おかしな問題ではないかなと。

そういう自然や空き家がいろいろ残っていて、今度は政策9の中の創業で「若者や女性をはじめとした多様な創業を支援します」とある。創業するというのは、私からすると中心市街地の中での創業ばかりを想像してしまうんですけど。今そういう観光地なり農山漁村、そういうところにこういう空き家とかいろいろなものがあるわけですね。そういう自然を捕まえた創業の支援とかね。都会の人なり、若者はいろいろな夢を持っているんじゃないかなと。そこら辺を、こういう政策の中にはめ込むといいんじゃないかなというのが、私が感じたところですよ。

南保部会長

ありがとうございます。2つ目の空き家の問題とか創業支援というのは、実行施策段階で他の観光や商工業も含めて総合的にやっていく必要があると思います。これについては、施策の方で落とし込むときに今のご意見は重要だと思いますので、関連性を持たせた施策を展開していただくと。観光にも関連あるし、商工業にも農業にも関係あるような、そういう空き家対策であったり創業であったりということは、また具体的な施策段階で落とし込みのときに考えていただくということで。実行段階で。

事務局（山田総合政策室長）

ちょっと言わせていただければ。第1部会のところに、大きな枠として中心市街地ににぎわいをつくるという話と、もう1つ地域づくりということを入れて、その中に空き家の利活用を入れています。

さらに今国が地方分権でいろいろな提案を求めている中で、福井市の方が空き家を有効活用して、お試しに来てもらって住んでもらうというような仕組みを考えたときに、旅館業法で法律の支障があるので、そこの提案をして、この12月に閣議決定をして、それができると聞いています。うちとしてはそういう空き家を有効活用して、特に地域の空き家問題を少しでもうまくできないかということはやろうとしています。

創業のことは、直接的な補助については、3年ほど前までは中心市街地で創業したらという限定だったのを、今は福井市のどこでもいいようにしています。そういう面で創業支援を受ける方がどっと増えていますので、引き続きそういうことはやっていきたいと思っていますし、さらに有効なことをやっていきたいと思っています。さらに実際の実施のいろいろな事業がありますので、その中でもまた工夫していきたいと思っています。

南保部会長

最後の所得向上は、実行計画の中で何かの目標をつくってやっていただくということになるのかと思いますけど、私はよくわからないんですが、農林水産業のそういうビジョンとか具体的な実行計画とかあるわけですよ。

見谷委員

ただこの文言だけでは、魅力とかそういうものが感じられないんじゃないかな。福井市の農業に携わる場合に、ある程度これくらいまでの向上を目指して行政も支援していきたいというものが出てこない。確かに全ての仕事は向上を目指して当たり前ですが、こんなものはずっと前からこの言葉だけが歩いているだけで。

事務局（山田総合政策室長）

あのプランの中に所得のことは入っていないの。

事務局（前田農政企画室長）

こっちに書いてある福井市農業活性プラン。

事務局（山田総合政策室長）

そうそう。

事務局（前田農政企画室長）

つくっておりますが、その中で所得の向上は当然うたっているんですが、具体的な数値の記載はございません。

南保部会長

かつての所得倍増計画のようなことがうたわれるといいんですけど、倍増できないですから。その辺確証が持てないというのがつらいところなんですよ。でも向上は目標として掲げたいという思いがありますので、これはなかなか数値化というのは難しいかなと思いつつ、もっと個別の計画の中で。

事務局（前田農政企画室長）

今農業でいいますと、先頭に立って中間管理機構を使って一応集積、集約化は図っています。そうすると規模が全然違ってくるというのがございます。例えば前は200万円のところを300万円、400万円としても、それは個人の農家でも全然規模が違いますし、確かに数値があった方がわかりやすいというところはありますので、どのようなかたちで示すことができるのかというのは検討しないといけないと。

南保部会長

これは金かきで数値化というのは難しいと思います。たぶん集約化とかそういうところで、何件の集約の実現を目指しますとか、そういうことならいけるかなと。

事務局（前田農政企画室長）

もうそれはうたっています。

南保部会長

もうすでにうたっているんですね。

事務局（前田農政企画室長）

やはり高所得となると、なかなか規模によっても違いますし、やっているのは稲作だけなのか、園芸なのか、そこら辺によってもちょっと違ってくる部分があります。

南保部会長

平成13年までは市町ごとに純生産で出していたんですね。あのときは第1次産業で農林水産それぞれ、どれくらい付加価値が出ているかというのは純生産のレベルで出せたんですね。だから伸びたかどうかと比較できた。ところがその平成13年以降は出していないんですね。もし出せれば、その純生産の数値をもって、それをどれだけ伸ばすかみたいな感じで出せたと思うんですね。今は実際に純生産を出せといっても単独ではできないでしょう。

事務局（前田農政企画室長）

はい。たぶん。調査してみないとわかりませんが、なかなか困難です。

南保部会長

あれが本当に出なくなってすごく不便なんですよ。市町ごとのレベルというか、その

成長度の度合いがよくわかんないんですね。結局測る度合いというのは人口とか、たまたま経済センサスの事業所統計とか、そこら辺でしか見えないというところがあつて。本当は付加価値で、総生産は無理にしても、純生産を何で出さなくなったのか僕もよくわかんないんですけど、出るといいなと思いますけどね。それは思います。でも、なかなかこれはちょっと難しいものがあるんですね。

事務局（前田農政企画室長）

ここは難しいところです。

見谷委員

これが難しいというのは、皆さんも知っているように農林事業の場合は今、農地中間管理機構で農地を集約しているじゃないですか。当然、集約するということは大型化してコストを下げ、生産力を上げていこうという考え方ですね。これからの時代に対応していくというのは、それはそれとして必要なんです。

しかし、僕らが一番懸念しているのは、そういう大型化されてくるということは、どうしても日本の場合は昔から家族農業、また農地そのものが財産という感覚の中で、今までのいろいろな農業技術の継承や、ある程度の年の方は組織から去らざるを得ない。どうしてもできる者が中心になってやっていくことになる。昔からの農業というのは補助金行政で今日まで来ているから、そういう体質かと思うんですが、家族農業のよき、集産化されても、今でも家族でやっている、または個人でやっている農家というのはあるんですね。自分では、そういうところから面白いものがまた出てくるのではないかという気がしています。

ただ、今の集約化をしているというのは、その財産的な土地を守っていかなくてはいけないということと、ある程度の補助金があるから続けていこうということ、そこにギャップがあるんですけども。本当に所得を上げている人というのは家族経営なり、自分で個人的な経営をしながら所得を上げている人が近郊で見ると多いですね。そこら辺、福井の農業を考えていくと、ただ大型化だけでいいものかというものも1つ片隅におきながら、この農業政策を考えてほしいというのが私の意見です。

南保部会長

大規模化だけでは片付かないということですね。

見谷委員

そこに問題もあると思いますね。

南保部会長

ありがとうございました。実際に施策を実行する段階でのご意見だと思います。たくさん頂きました。これはいろいろ事務局にファイルしていただくということで、よろしくお願いたします。

次、野坂委員、どうぞ。何かありませんか。

野坂委員

最後なので少し考えてこさせてもらいました。施策8は、私は素人なのでとても意見を言えることはないんですが。まず施策9に関して。重要度としては地元の産業が伸び、また創業するというのが一番ポイントだろうと思いますが、UIターンだけで人口増加といってもなかなか簡単ではないということになると、ここには全然触れていないけど、企業誘致という問題をどう位置づけたらいいかなと。

確かに、リーマン・ショックを含めて円高ということで、2次産業で人手を確保するための企業誘致ということは、あまり効果がないというか、むしろ激変要因の中で非常に問題も多かったのではないかなと思います。ラボ的な研究開発部門そのものを持ってくるとか、情報産業的な部分の、どこに立地していても問題がないようなものを誘致するというのを何か考える必要があるのではないかな。というのは、人口を増やさなくてはいけないということを考えると、U I ターンだけではなかなか。そのまま人を連れてくるくらいのことを考えないとなかなか難しい。現実的にそれを掲げると、担当者としては非常にプレッシャーがかかるかもしれないけれど、入れないと人を増やすという観点とか人口が減っているものが解決できないのではないかなと感じています。

ですから企業だけを誘致すると、求人倍率だけが上がって地元企業は大変かもしれないけど、人ごと連れて誘致するという視点の観点ができないかどうかと商工施策上は感じました。この辺で議論いただいたらどうかなという気はしています。

最近テレビを見ていたら、離島に結構人が来るとか。伊豆大島なんかで椿油を使って何とかかんとかということとか、どこか田舎でホームページ作成とかいろんなことで、自分の自宅でも仕事ができる時代になってきていることを考えると、もうちょっと住む環境とか、住居、子育てを含めて福井へ誘致するということに取り組んでもらってもいいのではないかなと思いました。ここに関しては。どうなんですか。もともと商工振興の。

事務局（山田総合政策室長）

ここの「企業立地」という言葉には、市内企業を大きくする、発展させるということと、企業を外から引っ張ってこようという2つがあって、企業立地戦略というものも去年作ってしまして、そういう点では誘致もやっていきたいなと思っています。

特に、インター周辺をどうするかという問題もあります。県外の企業への働き掛け方としては、BCPという意味で、あまり大きな地震がなく、安全なところだという言い方で誘致をしていくとか、いろいろ技術力が高い企業も福井にそろっている、それと地縁、もともと何かつながりがないとか、そういう意味で外から新たに入ってきていただく企業にもそういう取り組みを当然やっていくことは考えているんですけど。ここで・・・

野坂委員

誘致という言葉。

事務局（山田総合政策室長）

誘致という言葉をあえて「立地」として、2つを表すというふうに去年考えてそうしているんですが、もう1つ総合戦略の方では、はっきりと地方拠点の強化等で取り組むという書き方をしているので、そこら辺が見えないから書いていないのではないかなというのであれば、少し書きぶりは考えたいと思いますけど。あえて県外誘致は全然やらないと言っているわけではないということだけ、ご理解いただきたいと思います。

野坂委員

はい。そこが表現で出てないかなと思いました。

南保部会長

野坂委員のご意見は、去年私も参加させていただいていろいろ議論させていただきました。室長がおっしゃられるかたちで考えていまして、でもなかなか難しいというか。

野坂委員

よその小さい村がやったりしているんだから、もうちょっと福井市の行政として、これ

は本格的にやるんだという意気込みが書いていないとまずいんじゃないかということも含めて、あえて言っています。

事務局（山田総合政策室長）

わかりました。

野坂委員

それから政策10は、どちらかというとうまくまとめていただいていると思うんですが、観光を産業としてもうかるビジネスにしていけないといけないという視点で、来てもらう以上お金を使ってもらうようにしていこうという、もうかるビジネスにする。だからそこに参入していくという視点が必要だと、観光ビジョンでも検討しています。ですから全体の表現の中で、もうちょっと観光産業としてビジネスとして成り立つよう、言葉の表現を考えていただけるようにしてほしいと感じました。

それからもう1つ、この文章に無理やり加えるのは難しいんですが、手っ取り早いのはコンベンションに来てもらうとお金は落ちます。ですからこの期間中にコンベンション施設を新たにつくるとするのは難しいかもしれませんが、観光施設の改修を進めるとともに、コンベンションの誘致に利便性を高める政策をして、コンベンション誘致を積極的に推進するとか、何かコンベンションということも加えてもらったかどうかと思います。どこに入れたらいいか、この文章だけでは難しくなってしまうので、それを感じています。

それから、これは私もまったくの素人なんですが、施策8の③「市内産農産物の需要を拡大する」と書いてあるんですが、特産品農産物の需要を拡大するという表現は逆に難しいんですかね。市内産、特産品農産物の需要を拡大する、ブランドとか。

そこまで福井市には特産品がないのかどうか知りませんが、見谷委員からも話があったように、付加価値と売れるものを売っていかないことには所得は増えないんですから、もう少し特産品をつくっていくという視点をみんなが持っていないと。福井では何が、お米はおいしいんですとは言うけど、何か福井市でつくったもので、これはいい福井ですよとアピールできるものをつくっていただくといいんじゃないかなと思います。これは素人ですから、全然あれですけど。

見谷委員

真似るわけではないですけど、金沢ではルビーロマンというブドウとか、いろいろな、リンゴをまたやろうとしているとか、あれは行政が中心になってやっていると聞いていますから。野坂委員の言うようにブランド化をしていこうと思うと、金福スイカというのは昔からありますけど、ここら辺は1つの野菜ですから短期的なものですけど。金沢なんかブランド化しているのは果樹の方で、相当ね。

事務局（山田総合政策室長）

それは値段が高くなる。

野坂委員

市内産というのを特産品って名前に。

南保部会長

これ、施策としては具体的にやってはいるんですよ。

事務局（前田農政企画室長）

やっています。

南保部会長

やっていますよね。私も関わったことがあるんですけど、ブランド化事業みたいなことをやっていて、なかなかそれがブランド化にならないから悩んでいるんだろうと思います。これを入れることは私も全然異義はなく、例えば市内農産物の使用を拡大するとともにブランド化を図るなど、というような感じで入れても全然問題はないのかなと思います。それによってブランド化に対するイメージが高まるのであれば、入れることについてはいいなと思います。実際今やっていて、さらにそれに拍車を掛けるという意味でいいと思います。

これはどうでしょう室長、問題ないですか。

事務局（山田総合政策室長）

そこは重要なところだと思っているので。一品づくりとかね、そういう農産物もそうですし、商工の方で取り組んでいる話もあるので。表現はまたその辺を強めてやっていくというところで。

南保部会長

今、新保ナスはどうなったんですか。

見谷委員

あれはうちの町内ですけど（笑）。

事務局（山田総合政策室長）

「一押しの一品」という中には入っています。

南保部会長

個人的に言うと、うちの啓蒙小学校にいるときに新保ナスの種をもらってきて、子どもに植えさせてナスをつくって。あ、これ、ブランドになるわと。ブランドというか、新保ナスはやっぱり地域の人たちに食べてもらわないとだめですよ。食べることから始まるんだと思いますので。そういうことをやっているのかな、どうなのかなというのが気になります。

どうも、わっとアナウンスはするけど実行が伴わないというところがあるので。それはこの第七次総合計画とは違う次元の話になるのかもわかりませんが。そういう努力もやっていくという意味で、そのブランド化という言葉は何らか入れることには全然異義はないと思いますね。

野坂委員

支援として、流通段階での支援というのがなかなか難しいんですよ。

見谷委員

これは行政にあれするというよりJAとの関わりの中で、JAとどう関わりを持っていくかということですね。

野坂委員

結局なかなかその中間段階で売るのは簡単ではないしということで、そういう問題も解決してあげないとなかなか。

事務局（渡辺農林水産部次長）

販路ということで、直売所とかいろいろありますけど、JAの中にもありますし、普通のそういう生産者だけがやっておられる直売所もありますし、そういうものとうまく連携していきながら販路の。

野坂委員

連携してあげないと。売れないということに関わりますので。

見谷委員

そうだね。

事務局（渡辺農林水産部次長）

というのが重要なんじゃないかなと思います。

見谷委員

今日は新保ナスの話が部会長から出たけど、行政はどういうふう把握していますか。僕らから見たら、ただ好きなおじさんらがつくっているだけで。100本か200本つくっているだけですからね。

南保部会長

そうなんですか。あれは僕、面白いなと思ったんですけど。

見谷委員

それを喜ね舎へ、年間どれだけ出しているんだろう、そんなもの。ただ、部会長らが知っているように、新保ナスというのは一人歩きしているんだけど、実態は全然伴っていないね。そういう状況ですから。

南保部会長

どうぞ、お願いします。

事務局（林園芸センター所長）

園芸センター所長の林です。新保ナスの栽培の指導をうちの業務として担当してまして、現状を言いますと、先ほども言いました啓蒙壮友会という、農家じゃないところがつくっています。一応今回高く売れるというところでの働き掛けということで、まずはオイシックスというインターネット販売の会社に一応アピールしました。それと、市内の方では開花亭とか浜町の料亭の方に出すというところも仕掛けて、ブランド力を上げて。実際は、委員さんがおっしゃるように農家さんがまだつくってくれないという現実があります。

逆に言うと、消費の方からこんな素晴らしいものがということで、農家さんの方がそれに魅力を感じた人がつくってくれるというところで、そこから仕掛けようと今年ぐらいはしています。ただ、オイシックスの方には壮友会の方から送ることが、数的にやっぱり無理かなということで、今年はちょっと諦めましたけれども。

見谷委員

あの壮友会もだんだん年を取ってきますからね、1人、2人欠けてきますから。

事務局（林園芸センター所長）

また委員さんの方でこの方をと、農家さんを紹介してもらえれば説明に行きますので、ひとつよろしくをお願いします。

南保部会長

そういうことですか。ありがとうございます。こここのところの文言については、また考えていただくということで。

他はどうですか。もうよろしいですか。

野坂委員

もうよろしいですか（笑）。

事務局（山田総合政策室長）

さっき言われたコンベンションのところですが。

野坂委員

ちょっと表現が、どこに入れたらいいのかわからない。

事務局（山田総合政策室長）

政策10、施策②の中の2ポツ目に、「MICE（マイス）」がありますよね。こういう言い方になっているんですけど。

野坂委員

そうか、そうか。

南保部会長

これは昔コンベンションビューローで、いろいろなコンベンションを誘致するための第三セクターみたいなものをつくるような構想もありましたよね。知りませんか。聞いていないですか。私は関わったんですけど。

事務局（山田総合政策室長）

観光コンベンション協会。

南保部会長

コンベンション協会のその下部組織で。民間じゃないと誘致できないと、それだけのノウハウを持っていないから、それと福井市の施設に対するいろいろなハンディキャップというか弱みがあるので、そこら辺をカバーしつつ呼び込むような、第三機関をつくってそこが専門に誘致していこうみたいなことの計画があったんですね、昔。結局それは途中で空中分解してしまっただけですけど。実行部隊というか。

そんなのがここにも盛り込まれているので、あとは具体化のときにまたいろいろさらに実践的な部隊の編成のときに考えていただけるといいかなと。あれができればまた違ったんじゃないかと思っているんですけど。残念ながらなくなっちゃったんですが。

野坂委員

今室長がおっしゃられた中で、ソフト面での誘致活動というのはもちろんですが、ある程度ハードの部分もきちんとしていかないといけないという話です。

南保部会長

確かにそうです。

事務局（山田総合政策室長）

まったく考えていないわけではないんですけど、ちょっとまた、あんまり。

野坂委員

そういうことを少し匂わすようにしておくと。

事務局（山田総合政策室長）

そういうことですか。産業という書きぶりはちょっと考えます。ビジネスという書きぶりはちょっと考えた方がいいです。

南保部会長

もう皆さん、よろしいですか。

後藤委員

よろしいですか。もう最後なので。

一番初めのタイトルのところですが、もしこだわりがあるならいいんですけども、説明書きが右側の方に書いてありまして、例えば政策9であれば基幹産業の振興うんぬんがあって、「また、U I ターン就職の促進」とかいうことで。両方とも大事なので、ぱっと見、また書きすると主と従があって、どうも先行は基幹産業の振興ですよと取られちゃうので。何かこだわりがあるなら別ですけど、もしなければ「また」を取ればいいのかなど思ったりしています。

現市長も、いろいろな人口減少対策としてU I ターン、特に親御さんへの情報発信の強化とか、あと子育て、特に女性を活躍させるような施策をやっていきたいということをおられますので、やっぱり並列の方がいいのかなという気がします。これはどの施策もそのようにまた書きでくくっているのでも、もしこだわりがなければ「また」を取った方がいいのかなという気がいたします。

それから左側のタイトルですけども、一応句読点がなくてまとめてあるので、そういう意味では細かい話なんですけど、やはり政策10の「磨き上げ、」で読点はいらぬのかな。そこはきちんとした方がいいのかなという気がします。

それから、県とかハローワークの文言を入れていただきまして、私どももU I ターンについて本当に市と連携しながら強化をしていきたいと思っています。よろしくお願ひしたいと思います。

南保部会長

ありがとうございます。他はどうですかね。だいたいこんなもんですかね。なるべく下に広がって行くようなかたちで、事務局さんはまとめていただいたかという感じはしています。

特にこの計画自体の中身を変えるという意見をちょっとまとめさせていただくと、1つ目は農業の地元産品のブランド化という文言を追加という話、それから2つ目は、コンベンション誘致のハード面で少しこの表現の仕方、M I C E の誘致という中で、ハード面のことも少し入れてくれということですね。そういうことですね。

高原委員

いろいろあるのでね。

南保部会長

それと、3つ目はまた書き。これは全体の整合性もあると思いますので、他の部会との調整、他も同じようなかたちになっていて、そこら辺がどうなのかということでも変わってくるのかという気がするんですけど。そこはまた調整していただいて。

事務局（山田総合政策室長）

はい、全体を見ます。全体を見て考えます。

南保部会長

全体を見て考えていただければいいのかなと思います。

他は今いろいろ、林委員からもワークライフバランスの件、おもてなしをわかっているのかという話とか、農業所得の向上なんかはちょっとこれ、数値化は非常に難しいですが、またこれも考慮していただくとして。あとは実行段階でのお話が、かなり深く突っ込んだ話ですね、それが多くあったような気がします。これは実際に実行段階、作るところでまた検討していただければいいのかなという感じがいたしました。いずれにせよ、そんなに大きな直しのところはなかったような気がするんですが、そういう理解でよろしいでしょうか。

野坂委員

林委員からさっき出たワークライフバランスの問題、女性の雇用とか、U I ターンの話題もそうなんですが、もうちょっと本当にどうしたらいいのかというところの議論をきちんとされなくて、言葉だけで施策をやっているような部分がないのかどうか、その辺が私もちょっと気にはなっています。

南保部会長

これはどこもそうですね。

野坂委員

本質論として、なぜ都会へ出た者を戻すことができるのかとか、その辺の議論がされてはじめて施策も考えていかないと、上滑りで、企業だけ教育するとか就職説明会だけするのは、簡単ではないだろと思います。ですから、ちょっと実行力が伴わない、効果が出ないでそのままやっているケースもあるのかなという感じは受けています。

それから、女性が働きやすくするというところで、企業側も努力はしているんですが、正直なところ保育や介護を含めて働きやすくする、安倍首相の介護での離職をゼロにするとかいうのもあるんですが、その辺の問題ももうちょっと深く突き詰めて、福井市として何をやるべきなのかというような議論は、施策としてやっていく上では考えていっていただきたいと思います。

南保部会長

そうですね。

高原委員

それに関しまして、よろしいですか。若い人がIターン、Uターンで戻ってくる産業分野は、最近私が見聞きすると、農業とかものづくりなんですね。若狭町が年間400万円ぐらいの補助を出して、農業体験をしてそこで定住を図るといって、かみなか農学舎が若狭町にあります。これも実績をかなり積まれていて、福井で農業をしたい県外の若い人を取っ掛かりとして、そういう施設をつくって運営してやっているの。中山間地でなかなか担い手が付かないんですけども、そういったところで、規模は小さいけれども自分の生き方として農業を選ぶという若い人が増えてきているということです。そういうところは実質にあるんだろうなと。先ほど見谷委員がおっしゃいましたように、農業はそういう意味では、きちんと整備をしてやればIターンの1つのきっかけになる可能性はあるだろうと思いました。

あと、これも私はびっくりしたのは、Hacoa（ハコア）さんという、鯖江の河和田で漆器の木材をつくっている会社があるんです。従業員は数十人の会社なんですけど、全国から

集まってくる若い人を年間100人面接するらしいんです。Hacoaのブランドももちろんあるんですけども、そういうものづくりをしたいという人が、ものづくりの魅力に駆られて、社長いわく決して給料は高くないんだけど、手に職を付けたいと、伝統産業の技術を学びたいというので来ていて。その100人のうち採用するのは数人だけらしいんですが。

南保部会長

Hacoaというんですか。

高原委員

Hacoaは、例えばスマホ、携帯のケースを木でつくったり、木のキーボードですね。

事務局（山田総合政策室長）

ありますね。

南保部会長

木地屋さん。

高原委員

木地さんが新しいブランドを発信しています。

南保部会長

聞いたことがないですね。

高原委員

ものづくりや農業も結構若い人の吸引力があるんだなと。これは決して大きい産業とか大きい会社というのではなくて、地域の魅力が発信できれば、またその取っ掛かりができるような施設、機関があれば、かなり集まってくるのかなと。

同じ鯖江の河和田でも今、一般社団法人でPARKをつくっているんですね。ものづくりを教えながら、そこに定住もしてもらおうというやり方のところがあります。この前も北海道からご夫婦で、家賃1万円の空き家で、そこで働いているんだとおっしゃっていましたけど。そういうものづくりを学ぶ、職を与えるということと、住む場を提供するということが一体になって、地域もそれをちゃんと了解した上で受け入れ体制も整っているという、そういったところを最近見まして。これはやっぱり福井市としてもありかなと思いました。

南保部会長

私はそのHacoaというのは初めて聞きました。

高原委員

そうですか。

野坂委員

木製のキーボードとか名刺入れの。

林委員

東京のKITTEの中にもあります。

高原委員

KITTEの中にもありますし、銀座にも来年店を出すと言っていました。

南保部会長

本当ですか。

高原委員

御徒町にも店がありますし。

南保部会長

僕は知らなかった。恥ずかしいな。

高原委員

いえいえ。

野坂委員

最後にもう1つ、よろしいですかね。離島その他でも人が来る、そういう農業体験をしたいとかいろいろなことをやりたいというので、結構そういうこともあるんですが。福井市はちょっと中途半端なんですよね。田舎というわけでもないし。だから福井市としてどういう魅力で、どういう具合に人を戻すようにするかという、その部分をきちんとしないと。ただ田舎が体験できるんだったら、もっと田舎は幾らでもあるので。そこも考えた上でのIターン、Uターン、もしくはそういうものづくりで人に来てもらうようなことは考えていかないと難しいんだらうと思います。

高原委員

そうですね。どういうブランドを外に見せていくかということですよ。見せ方というのをね。

事務局（山田総合政策室長）

そこだけで十分議論しないとなかなかできないとは思っています。

3. まとめ

南保部会長

ありがとうございました。では、今何か所か計画自体の中身を少しいじるというところがありましたけれども、大きな直しはなかったような気がします。あと細かいところは、私と事務局の方でまた議論させていただいて、1月の調整会議、そのときに報告させていただきたいと思いますが、よろしゅうございますか。

ではそんなかたちでまた修正を加えて、修正したものはまた各委員にお見せするんですかね。

事務局（山田総合政策室長）

はい。

南保部会長

させていただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。今日は時間を取りましたけれども、大変ご協力、審議をありがとうございました。

事務局から何かありましたら、お願いします。

事務局（山田総合政策室長）

どうもすみません、お忙しいところをお集まりいただきましてありがとうございます。

今日の部会の分は、またいろいろご意見を伺ったところを訂正させていただきたいと思います。

それと、前回審議会のときにもちょっと言わせてもらいましたが、総合計画としてどう取りまとめていくか、どういうふうなまとめ方、具体的な施策のところはこういうかたちにするんですけど、それをどういう流れにするのか。上の方で、例えば目標、将来像、あの辺を変えないと基本的に言っているんですけども、その辺もちょっと事務局の方でもいろいろ考えを持っています。またその辺は調整会議で1回お諮りして、皆さんにもご意見を伺って、第七次総合計画とはどういう計画なんだということを、全体をまたお見せしご意見を伺いたいと思いますので、引き続きいろいろまた、今日で終わりではないので、よろしくをお願いします。どうもありがとうございました。

4. 閉会

事務局（山本総合政策室副課長）

どうもありがとうございました。本日の審議会は以上で終わりますので、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。

（以 上）

第七次福井市総合計画審議会 第3回専門部会 出席者名簿

第3部会 産業分野

※委員50音順、敬称略

		氏 名	備 考	出欠
福井市総合計画審議会	部会長	南保 勝	福井県立大学 教授	○
	副部会長	宮崎 和彦	福井商工会議所 専務理事	×
	委員	片川 正美	福井市農業協同組合 指導販売部長	×
	委員	後藤 清範	福井労働局 公共職業安定所長	○
	委員	高原 裕一	(特非) アントレセンター 理事長	○
	委員	野坂 鐵郎	福井観光コンベンションビューロー 理事長	○
	委員	林 美里	女性起業家交流会 ふくむすび会 会長	○
	委員	見谷 喜代三	福井市議会	○
市	総合計画策定会議	三谷 清	都市戦略部	○
		倉 美幸	商工労働部	○
		渡辺 知幸	農林水産部	○
		山田 幾雄	総合政策室長	○
	事務局	山本 誠一	総合政策室副課長	○
		塩谷 靖喜	総合政策室主任	○
		山口 秀明	総合政策室主幹	○
		落合 大輔	総合政策室主査	○
		松田 佳恵	総合政策室主査	○